

地域活動の計画を可視化する—ロジック・モデルの活用

平成28年地域政策研究センター(地域提案型・後期) 採択課題

課題名：多世代交流による持続可能な地域づくりを可能とするための人材育成および地域マネジメント研究— 関市藤沢町住民自治協議会を事例に—

研究代表者：社会福祉学部 准教授 佐藤哲郎

研究メンバー：齋藤昭彦(社会福祉学部) 菅原照夫(住民自治協議会)
及川秀子(一関市)

技術キーワード：活動の可視化 ワークショップ 稼働の計画(企画) ロジック・モデル

▼研究の概要(背景・目標)

地域づくりに対する高齢者の社会参加の促進、多世代による地域づくりへの取り組みの促進が求められる時代背景を踏まえ、本研究では、①高齢者の社会参加を促進する、②地域をマネジメントするための地域人材の育成、③多世代が交流するための場づくり、の3点を目標とした。

▼研究の内容(方法・経過)

1. 実施概要

【目標①・②】

住民ワークショップ(WS)を計3回実施するなかで、活動プログラムの計画(企画)をロジック・モデル作成を通じて可視化する。

【目標③】

藤沢中学校生徒有志6名により企画した、地元産のりんごを活用したアップルパイを多世代の参加者で作る「次世代プロジェクト」を実施した。

2. 実施期間 2016年11月～2017年10月

▼研究の成果(結論・考察)

1. 高齢者の社会参加を促進する、地域をマネジメントするための地域人材の育成、の目標について、住民WSを通じて「ロジック・モデル」を作成することができた。

2. 多世代が交流するための場づくりについては、藤沢中学生徒有志が取り組んだ「次世代プロジェクト」の取り組みにより達成できた。

【第3回WSのポイント】

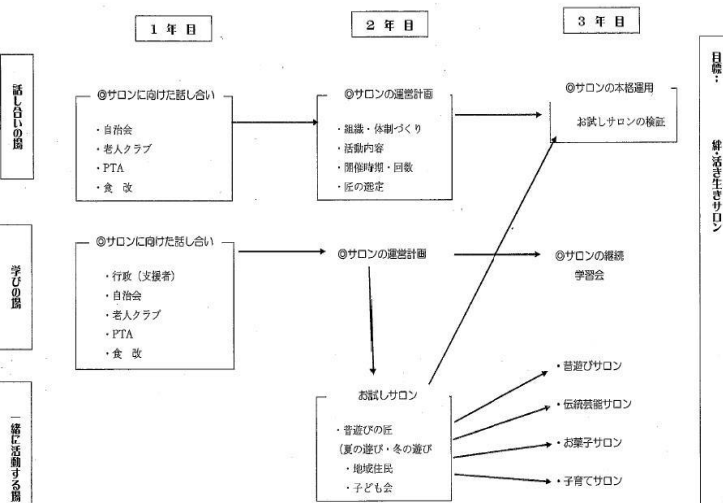
1. ねらい

- (1) 活動メニューの実現を3年の時間軸で可視化する
- (2) 各場がつながることがイメージできる
- (3) 継続と発展を視野にいれている

2. ポイント

- (1) 1年目を重点に
 - ① 3つの場をつなぐ(関連づける)
 - ② 各場においてどのような社会資源が加わればよいか
 - ③ 1つの場での働きかけが複数あってもよい
 - ④ 1年目は無理して【一緒に活動する場】を設定する必要はない
- (2) 2年目・3年目は継続と発展系
 - ① 継続・・・昨年場を繰り返すということ
 - ② 発展・・・昨年場が発展すること
- (3) 矢印(関連性)のつけかた
 - ① 単独と双方向
 - ② 時系列(1年目と2年目、2年目と3年目)

Dグループ テーマ「匠に学ぶ・お茶っこサロン—地域の人を活かす—」



▼おわりに(まとめ・今後の展開)

1. 活動メニューを実行していくためにも、作成した「ロジック・モデル」を活用していくことが重要となる。
2. 実施前→実施中→実施後の各プロセスのなかで関係者による協議を深めるツールとして活用していく。
3. 藤沢中学校で取り組んでいる「次世代プロジェクト」を今後も発展的に実施していく